

# 第1学年1組 算数科学習指導案

1 単元名 たしざん

2 指導観

【1学年1学期】

【1学年2・3学期】

【2学年】

【あわせていくつ  
ふえるといくつ】  
さし絵を見て、合併の場面でのお話作りをしてきた。そして、合併や増加の場面で、ブロック操作や図に表したりして加法の意味をとらえて、加法の式や答えの書き方を練習してきている。また、たし算カードを使って和が10以下の加法の計算の仕方を理解してきている。さらに、日常生活場面の絵を見て、たし算のお話づくりを通して、加法の意味理解を深めてきている。

【たしざん】  
繰り上がりのある1位数と1位数の加法の計算の仕方をブロックを使って求める方法についてペア交流をする。その際、10のまとまりに着目させてブロック操作でたし算の求め方を表現する方法を考えるとこでペア交流を行う。そして、たし算カードを使って、繰り上がりのある加法の計算の習熟を図る。さらに、生活場面の絵や式を見て、繰り上がりのある加法の問題づくりを行い、加法の意味理解を感得させる。  
【たしざんとひきざん】  
10のまとまりに着目させながら、(何十)+(何十)の計算の仕方を考え、計算できるようにする。そして、数の構成(何十といくつ)をもとに位で分けて計算する仕方を理解できるようにする。

【たし算】  
十進位取り記数法のしくみをもと2位数の加法の計算の仕方の意味について理解し、より広い場面や意味に用いることができるようにしていく。また、2位数の加法の筆算の仕方や加法の交換性について理解させる。さらに、日常生活から、加法を用いられる場面を見つけ活用する活動を通して、計算の広がりを感じさせる。

3 目標

- 10のまとまりに着目するという、繰り上がりのある1位数と1位数の加法の計算の仕方を理解して計算ができる。(知識及び技能理解)
- 繰り上がりのある1位数と1位数の加法で、計算の仕方を考え表現することができる。(思考力・表現力・判断力等)
- 既習の計算の仕方や数の構成をもとに、繰り上がりのある1位数と1位数の加法の計算のよりよい仕方を求めて粘り強く考える態度、10のまとまりをつくるよさに気づき学習したことを生活や学習に活用することができる。(学びに向かう力・人間性等)

4 単元計画(12時間)

- (1) さし絵を見てたし算の問題づくりと計算の仕方を考え、学習の見通しをもつ。・・・①
- (2) 加数分解や被加数分解に適した加法の計算ができる。・・・④(本時3/4)
- (3) 繰り上がりのある加法の計算の仕方を理解する。・・・②
- (4) たし算カードを使って、繰り上がりのある加法の計算に習熟する。・・・③
- (5) 学んだことのよさを実感する。・・・①

5 本時 平成30年11月 2日(金) 2校時

6 主眼

- 繰り上がりのあるたし算を計算することができる。
- 10のまとまりをつくることに着目して、自分の考えを自分の言葉や図や式で説明することができる。

7 準備 学習プリント ブロック 10の図 挿絵 発表ボード

8 本時の過程 (4 / 12時間)

段階	学習活動と内容	主な支援
<p>つかむ</p> <p>さぐる</p> <p>深める</p> <p>生かす</p>	<p>[問題を見いだす活動]</p> <p>1 今までタイムを行い、本時のめあてをつかむ。</p> <p>○ 既習学習のたし算を想起する。(ブロック・図)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <math display="block">\begin{array}{r} 9+4=13 \\ \swarrow \searrow \\ 1 \quad 3 \end{array}</math> </div> <div style="text-align: center;"> <p>10のまとまり</p> <p>9と1で10</p> <p>10と3で13</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <math display="block">\begin{array}{r} 9+4=13 \\ \swarrow \searrow \\ 3 \quad 6 \end{array}</math> </div> <div style="text-align: center;"> <p>10のまとまり</p> <p>4と6で10</p> <p>10と3で13</p> </div> </div> <p>○ 問題を提示し、見通しを話し合っめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <math>3 + 9</math> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あわせてだからたし算だね。</li> <li>・うしろの数が大きい。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>3 + 9のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> </div> <p>2 見通しをもとに、3+9のたし算の仕方を考える。</p> <p>(1)解決の見通しを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10のまとまりをつくれれば計算できそうだ。</li> <li>・9に1をたせば10になる。</li> <li>・3に7をたせば10になる。</li> </ul> <p>(2)自分の解決の方法をノートにまとめる。</p> <p>[考えを表現し、伝え合う活動]</p> <p>3 考えを交流し、たし算の計算の仕方を見いだす。</p> <p>○ 考えをペアで交流し、自分の考えに付加修正する。(ブロック・○の図)</p> <p>○ 全体で交流し、考えを分類する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <math display="block">\begin{array}{r} 3+9=12 \\ \swarrow \searrow \\ 2 \quad 1 \end{array}</math> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <math display="block">\begin{array}{r} 3+9=12 \\ \swarrow \searrow \\ 7 \quad 2 \end{array}</math> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>① 10のまとまりをつくるために3を1と2にわける。</p> <p>② 9に1をたして10</p> <p>③ 10と2で12</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>① 10のまとまりをつくるために9を7と2にわける。</p> <p>② 3に7をたして10</p> <p>③ 10と2で12</p> </div> </div> <p>[学んだことを活用する活動]</p> <p>4 本時のまとめを行い、チャレンジタイムを行う。</p> <p>○ 本時学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単にできる方法を考える。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>小さいかずをさくらんぼにして、10のまとまりをつくる。</p> </div> <p>○ チャレンジタイムを行い、学んだことのよさを実感する。      2 + 9</p>	<p>○ 本時の見通しを持たせるために、計算だけでなく、加数や被加数の大きさの見方や10のまとまりをつくることも振り返らせる。(黄色と白色のブロック・さくらんぼ図)</p> <p>○ 個に応じるために「10の部屋」にブロックを置いて考えさせたり、ヒントカードを用意する。</p> <p>○ 見通しをもたせるために、今までタイムで行ったことを振り返らせる。</p> <p>○ 考えを書いたホワイトボードを使わせることで自分の考えと友だちの考えを比べながら聞かせ、加数分解・被加数分解の2つの方法があることに気づかせる。</p> <p>○ 学んだことのよさを実感させるために、練習問題に取り組ませる。</p> <p>○ 遅れがちの子には「10の部屋」を使って操作させたりヒントカードを渡したりするなど個別指導をする。</p>

授業仮説：

加数分解や被加数分解に適したたし算の計算を振り返らせ、10のまとまりをつくることに着目して、自分の考えを自分の言葉や図や式で説明することができる。

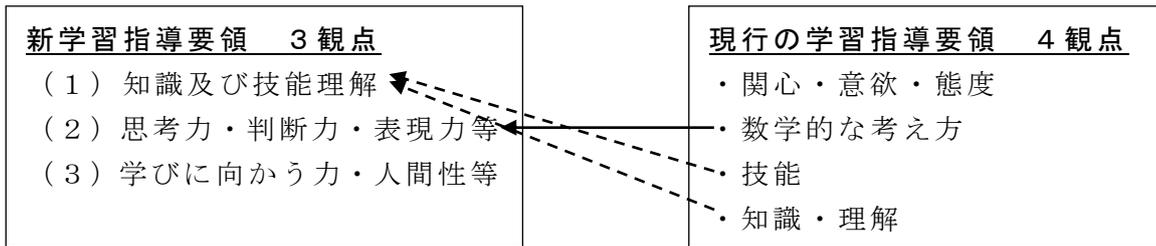
学習活動	成果	課題
1 今までタイムを行い、本時のめあてをつかむ。		
2 見通しをもち、たし算の仕方を考える。		
3 考えを交流し、たし算の計算の仕方を見いだす。		
4 本時のまとめを行い、チャレンジタイムを行う。		





資料 目標について

1. 目標をたてる時の考え方



- (1) 知識及び技能理解は、現行の「技能」、「知識・理解」を参考にたてる。  
 (2) 思考力・判断力・表現力等は、現行の「数学的な考え方」を参考にたてる。  
 (3) 学びに向かう力・人間性等は、新学習指導要領で段階的に下記のように明記している。

資料 1 各学年の学びに向かう力・人間性等「新学習指導要領」

第1学年	数量や図形に親しみ、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。
第2・3学年	数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数学的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養う。
第4・5・6学年	数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

1) 新学習指導要領の目標を書く。

① 数学的に表現・処理したことを振り返り、② 多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、③ 数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2) 文言を本単元で考える。(第4学年単元「小数」を例に)

- ・ 本単元に関係ない文言はないか
- ・ 文言をより具体的に

① 数学的な表現・処理したことは、記数法をもとに表したことかな。

② 多面的には、小数を構成的・相対的な見方になるかな。

③ 数学のよさに気付きは、十進位取り記数法のよさに気付きになるかな。



3) 目標を決める。

記数法をもとに表したことを振り返り、小数を構成的・相対的な見方で捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考え、十進位取り記数法のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用とすることができる。